

# 第6学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 支え合い 助け合い (内容項目2ー(5)感謝)  
 2 資料名 「ありがとう」 (出典 彩の国の道徳「夢に向かって」小学校高学年用)  
 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目2ー(5)「日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。」ことをねらいとしている。高学年では、感謝の対象が人のみならず、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの、さらにはそのような中で自分が生きていることに対する感謝にまで広げることが必要である。そして、それにこたえて、自分は何をすべきかを自覚できるようにし、進んで実践できるようにしていきたい。第1学年及び第2学年の「日ごろ世話になっている人々に感謝する。」ことや、第3学年及び第4学年の「生活を支えている人々や高齢者に尊敬と感謝の気持ちをもって接する。」ことから、中学校の「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。」ことにつながっていく。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は明るく元気である。最高学年として「進んで行動する」、「下級生に優しくする」、「お手本となるような行動をする」など自分の力を生かし、よりよい学校にしようと意欲をもっている。また日々の生活の中で、自分たちは登下校の見守りや学習ボランティアの方々にお世話になっており、地域の方々を支えられていることを知っている。しかし、周りの人々に支えられて日々の生活が成り立っていることに感謝の気持ちを持ち、自分から進んで感謝の気持ちを伝えることができない児童も多い。そこで、本資料の主人公と自分を重ね合わせることで、自分の生活は友だちや家族だけでなく様々な人々に支えられたり助けられたりしていることに気付かせる。そのことに感謝して、自分には何ができるのか考え、実践しようとする態度を身につけさせたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公「由美」が一人でおばあちゃんの家までバスでおつかいに行く。バスの中で、運転手さんに注意され嫌な思いもしたが、マナーが悪い高校生を注意したり、バスの中で待たせてもらったこと、運転手さんは、乗客のことを思ってがんばってくれていることに気付き、感謝するという内容である。

本時の学習を通して、私たちの生活は、人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気付き、感謝する心をもたせたい。そして、自分の心の中の感謝の気持ちが相手に届き、潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚できるようにしていきたい。

4 人権教育上のねらい

○お互いのよさやちがいを認め合い、よりよい人間関係づくりの基礎を身に付ける。  
(人間関係づくり)

5 本時の学習 1時間扱い

(1) 本時のねらい

私たちの生活は、様々な人の助けや支えによって成り立っていることに気付き、それにこたえようとする態度を育てる。

(2) 人権教育上の視点

○人にはそれぞれの好みや考え方などにちがいがあることを知り、お互いのよさを認め合い、大切に  
(態度)

(3) 教育に関する3つの達成目標からの視点

○ていねいな言葉づかいができる。  
 ○教師の話や友だちの発表をしっかりと聞き、発表することができる。  
(規律ある態度)

(4) 本時の展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動(主な発問)	予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価	時間
導入	1 アンケートをもとに、誰かにしてもらってうれしかったことについて考える。	・やり方が分からなくて困っているときに、教えてくれた。	○アンケートの結果を伝える。 ○身近な「ありがとう」について振り返らせ、本時のねらいとする道徳的価値への意識を方向づける。	3

展	とらえる	2 登場人物、条件、状況について知る。 ・すぐそばにある、みんながなかなか気付かないありがたいについて考えていこう。  3 資料「ありがとう」の範読を聞き、話し合いの方向性をつかむ。 ・由美の気持ちになって聞く。	登場人物 ◎主人公 由美 バスの運転手 お母さん スタートの条件・状況 ・由美はお母さんにおつかいを頼まれて一人でバスに乗り、おばあちゃんの家まで行く。	・「貸切」「回送」の意味について説明する。 ・主人公の気持ちがあつかめるよう、間や強弱を意識して読む。 ・わかりづらい語句には説明を入れながら読む。	7
	深める	4 「由美」の気持ちを中心に話し合う。 (1) バスが動いている時に、両替機を使おうとして、それを運転手さんに注意されたとき、由美はどう思ったのでしょうか。  (2) 運転手さんがマナーの悪い高校生を注意しているところを見て、由美はどう思ったのでしょうか。  (3) バスの表示が「貸切」になっていたことを知って、由美はどんなことを考えたのでしょうか。	・なんで他のお客さんの前で注意するの。 ・これぐらいいいじゃない。 ・そんなにきつく怒らなくてもいいのに。 ・恥ずかしいな。  <b>厳しいな</b> ・怖い人だな。 ・どうしてそんなに厳しいんだろう。 ・そこまで強く言わなくてもいいのに。  <b>優しいな</b> ・他のお客さんのことも考えてくれているんだ。 ・私たちの安全やマナーを考えてくれているんだな。  ・私ひとりのためにバスを止めていてくれてうれしい。 ・あんなに注意していた運転手さんだけど、乗客のことを考えてくれているんだ。 ・運転手さんありがとう。	○他のお客さんの前で運転手さんに注意され、嫌な思いをした由美の気持ちに共感させる。  ○文句を言われながらもバスの中でのマナーを守らせようとする運転手さんの姿を見て、私たち乗客の安全を考えてくれているんだなと気付き始める由美の心の内を考えさせる。  ◎登場人物の心情に迫ることにより、人間としての生き方、考え方を考えさせ、よりよい生き方、考え方を身に付けさせる。  ○乗客のために一生懸命働いている運転手さんに感謝する気持ちを押さえる。 ○最後の一人のことまで考えていた運転手さんの優しさや仕事に対する真面目さにも触れて考えさせる。 ☆運転手さんに感謝する由美の気持ちに共感できたか。	20
開	みにつめる	5 自己をみつめる。 ・私たちはどんな人たちに支えられて生活しているのだろう。また、自分たちは支えてくれている人たちに対してどんなことができるだろう。	・学校では、地域の方々が来てくれて、学校をきれいにしてくれている。 ・防犯パトロールの方が、私たちの安全を守ってくれている。 ・私たちは笑顔であいさつやお礼を言って感謝の気持ちを表したい。	○たくさんの人に支えられていることに気付かせ、その後、ワークシートに書かせることで自己を見つめられるようにする。 ☆支え合い、助け合って生活していることに気付き、周りの人に感謝する心をもつことができたか。	10
	終末	6 本時のまとめをする。 ・教師の説話を聞く。		○「あなたのおかげ」を話すことでねらいの根底にある道徳的価値を児童が一層主体的に考えられるようにする。	5

## 6 評価の観点

- ・主人公「由美」の気持ちになって考えることができたか。(発表)
- ・支え合い、助け合って生活していることに気付き、周りの人に感謝し、それに応えようとする気持ちをもてたか。(発表・ワークシート)